

看護研究発表会をおこないました



3年生が、これまでの実習の集大成としてケーススタディによる看護研究発表をおこないました。1・2年生も聴講し、それぞれが自らの看護について考える機会となったようです。



自分の看護を考えたことで、実習での学びの振り返りや、自身の看護観について考えることに繋がった。また他者の看護研究発表をきいたことで、領域別の患者への看護の方法や、その人の看護観についても理解できた。看護研究発表会をおこなったことで、今後の看護に活かせる知識が増えたと思う。

3年生 K・E

患者さんを受け持たせていただいている間は気づけなかった視点や看護介入方法について、文献を活用し振り返ることで、今後の自分の看護スキル向上のための新たな知見を得ることができました。また他の人の発表をきいて、患者さんの状態やニーズに合った看護介入方法を学ぶことができたことに加え、質疑応答によって発表内容の理解や学びがぐっと深まり、よい情報共有の場になったと思います。自分の中の看護の選択肢が増えると、看護実践の場において、患者に質の高い看護を提供することができると思いました。

3年生 S・A

様々な身体・精神・社会状態にある対象への看護の効果や意義について、学びを共有することで根拠に基づいた看護を学ぶことができました。さらに発表で得た学びを、今後に活かすことができると感じました。看護師として臨床の場に立った時に今回の学びを患者さんに提供し、個別性のある看護を提供したいと思います。

3年生 N・K



看護研究発表会を聴講し、患者さんを様々な視点でみることや、1人の患者さんではなくひとりの人として看護を展開していくことで患者理解を深められるということを学びました。特にストーマ造設でショックを受けていた患者さんに対し、学生自身もストーマ装具を装着することで患者さんの気持ちを理解しようとしたと聞き、このような介入方法もあるのだと知りました。またこれまでの実習での自分の看護を振り返る良い機会となりました。

2年生 M・S

看護実践の事例を聴かせていただくことで患者さんとの有効なコミュニケーションの取り方や、看護理論を用いた看護援助の実践について学ぶことができ、大変勉強になりました。約1年間に及ぶすべての実習を終えた3年生の、患者さんを十分に観察し、その方にとっての必要な看護を考え、実践へと繋げていくアセスメント力の高さを感じました。3年生のようになることを目指し、この場で学んだことをこれから始まる本格的な実習で活かしていきたいです。

2年生 I・K



1年生の初めての病院実習を直前に、このような発表会を聴講でき、座学や実習への意欲がより一層高まりました。看護上の問題の読み取りや看護目標の明確化・計画・実施など、実際に患者さんに最適な看護を提供するためには、1年生の勉強が重要な基盤となっていることを改めて自覚しました。3年生が卒業するまでの限られた残りの期間で、直接会話を交え、たくさんの経験談や知識を吸収させていただきたいと思います。

1年生 Y・W